

令和7年度 八王子市立第二小学校 学校評価総括

めざす学校像	子ども、保護者、地域、教職員に愛され、誇れる学校										
	○確かな学力を身に付けさせる学校 ○一人ひとりの良さが伸ばされ、活かされる学校 ○信頼関係のある温かい学校 ○地域社会と協働する学校										
アンケート実施 児童:2月及び全国学力学習状況調査等 保護者:3月 アンケート回収率(合計)63.2% 教職員:3月											
知性	児童(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		児童(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		教職員(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		自己評価		学校関係者評価		
	教え方はわかりやすい	86.1	88.8	意欲をもって授業にのぞんでいる。	90.3	88.2	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	100	93.7	<p>学校教育目標「知性」に関する肯定的回答は、62.8%から100%までのばらつきが見られた。</p> <p>教職員の「児童一人ひとりの学習定着状況の正確な把握と適切な指導・支援」が96%と高い値であるのに対して、児童の「教え方はわかりやすい」が86.1%と認識に差が生じている。引き続き、学力向上プロジェクトチームによる学習定着度状況の把握と適切な指導に向けた、校内外の研修等による研修機会の充実を図り、教師一人ひとりの高度専門職としての授業力向上を図っていく。</p> <p>同様に教職員の『『八王子市版 GIGA スクール』の定着による ICT 活用技能の向上』が96%に対して、児童の「必要に応じて1人1台の学習用端末などのICT機器を活用した授業を行っている」が79.1%と、こちらも大きな認識の差がある。ICTの利用を目的とするのではなく、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現をめざした、ICTの効果的な活用を視点に、教職員のICT活用指導力の向上に向け、引き続き、あらゆる機会を通じて授業改善及び授業力向上を図っていく。</p> <p>なお、義務教育修了段階で全児童・生徒に身に付けさせる社会生活を営む上で必要最低限の知識・技能の習得を確認するための「はちおうじっ子ミニマム」については、20点満点の17点以上の児童、第2回で第1回よりも得点が向上した児童を合わせた結果、国語で86.3%、算数で92.2%だった。</p>	<p>全体的には肯定的な回答が多く、満足できる結果であると言える。しかし、「ICTを活用した授業」「協働的な学び」については、9割に満たない結果となっていることから、より改善に向けた検討が必要だと感じる。</p> <p>義務教育修了段階で全児童・生徒に身に付けさせる社会生活を営む上で必要最低限の知識・技能の習得に向けて、児童一人ひとりの課題を把握し、問題解決的な学習の充実を図るための授業展開・組み立ての工夫・改善に努めることが必要ではないか。</p> <p>さらに、小中一貫校として、中学校との円滑な接続を実現するためには、義務教育9年間の初期段階である小学校段階で、学習意欲や学習習慣を養うことは非常に重要である。</p> <p>児童の主体性を大切に授業づくりを通して、児童一人ひとりが自己肯定感や自己有用感を高めていくことが必要である。</p>
	授業で集中できる	88.1		真面目に授業を受けている。	85.9		児童一人ひとりの学習定着状況の正確な把握と適切な指導・支援	96.0			
	友だちや自分の意見が大切にされている	89.9		チャイム前に準備をして着席することができている。	96.2		児童一人ひとりの問題解決的な学習の充実を図るための授業展開・組み立ての工夫・改善	96.0			
	児童に対して、公平に接している	83.2		授業中、すすんで自分の考えを発表している。	89.2		論理的思考力、批判的思考力の向上に向けたプレゼンテーション等表現活動の充実	92.0			
	本時のねらいまたは目標を示している	94.1		分からないことは先生や友だちに聞いている。	94.2		読書センター、情報センター、学習センターとしての 学校図書館の機能の整備と活用	80.0			
	自分の学習の取組をきちんと評価している	95.7		授業中、自分の考えを他の人と共有し、話し合い活動をしている。	95.3		「八王子市版 GIGA スクール」の定着による ICT 活用技能の向上	96.0			
	調べたり、考えたり、話し合ったりする場面を授業の中に取り入れている	83.3		授業で使う道具を準備している。	91.6		必要に応じた補充学習の実施	96.0			
	必要に応じて1人1台の学習用端末などのICT機器を活用した授業を行っている	79.1		ノートや提出物、宿題などをきちんと出すようにしている。	92.2						
	質問に答えている	88.4		予習や復習を心がけている。	62.8						
	黒板にわかりやすく書いている	92.7		学習用端末を使用した授業は楽しい。	84.1						
	授業を進めるスピードは、ちょうど良い	88.3									
	授業の開始時刻と終了時刻を守っている	91.6									
	授業中のトラブルにも適切に指導している	89.4									
授業の最後に学習内容を振り返る活動を設定している	93.8										
公正	児童(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		保護者・地域(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		教職員(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		自己評価		学校関係者評価		
	いじめを許さない学校づくりへの取組	93.6	90.7	(保) いじめを許さない学校づくりへの取組	86.2	90.2	人権教育の推進を通して、自他を尊重し、いじめを許さない思いやりのある態度の育成	96.0	96.5	<p>学校教育目標「公正」に関する肯定的回答は、児童は約90%、保護者は約91%、教職員で約97%だった。教職員の「自尊感情や自己肯定感、自己有用感、信頼関係の構築」が100%に対して、児童の「自分自身は大切な存在である」が約85%となっている結果については、原因を明らかにした上で、自尊感情や自己肯定感、自己有用感の向上に向けた具体的な手立てを講じる必要がある。</p> <p>いじめに関する設問については、「いじめを許さない学校づくりへの取組」が児童で約94%、教職員で100%と高い中、保護者、地域が約86%と低くなっていることから、学校の取組を校外へ発信する必要があり。本校のいじめの認知件数は182件であり、うち、126件解消した。この結果について、本校は教職員がいじめ問題に関する基本的認識をもって、未然防止、早期発見、早期対応に適切に取り組んでいると自己評価している。</p>	
	生活指導への適切な取組	89.4		(地) いじめを許さない学校づくりへの取組	92.3		明るく爽やかな挨拶を交わし合う教育環境の整備	92.0			
	将来の進路や職業についての指導	90.3		(保) 生活指導への適切な取組	94.0		「認め、励まし、褒め、支える」指導・支援、自尊感情や自己肯定感、自己有用感、信頼関係の構築	100			
	仲間をいじめることなく大切にしている	93.8		(地) 生活指導への適切な取組	91.6		誰一人取り残さない特別支援教育の充実による「共生社会の担い手」の育成	96.0			
	自分自身は大切な存在である	85.2		(保) 特別支援教育への取組	87.0		考え議論する道徳授業の展開と充実	96.0			
	困っている人をすすんで助けている	91.7					自主的・実践的な集団活動の充実により、主体性や忍耐力の育成、達成感や成就感の感得	96.0			
	いじめは、どんな理由があってもいけないと思う	87.5					いじめを許さない学校組織と学校いじめ対策委員会の機能発揮	100			
	自分にはよいところがあると思う	93.9					一人ひとりの多様なニーズに応じた登校支援の充実	96.0			
貢献	児童(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		保護者・地域(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		教職員(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		自己評価		学校関係者評価		
	人の役に立つ人間になりたい	96.2	84.2	(地) 地域と共にある学校づくりを推進している	92.6	92.5	義務教育9年間を見直し、地域に根ざした切れ目なく系統的・継続的な教育活動	92.0	96	<p>学校教育目標「貢献」に関する教職員の肯定的回答は96%となった。例年実施している「学校・地域合同防災訓練」に加え、地域美化活動への参加、地域人材と連携した学習活動の充実により、地域への愛情を深め、地域に関わろうとする思いを醸成する取組を推進した結果が表れている。一方で、児童の「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う」が約77%と低い結果になっていることから、取組の充実と児童の実態との乖離が課題である。取組内容を精査し、より地域への愛情を育める取組の実施するとともに、学校が実施している教育活動の目的等をより正確に児童や保護者に伝える必要がある。</p> <p>児童の肯定的回答が75%となった「将来の夢や希望をもって」については、自己を見つめ、自身の将来を考える機会の充実に向け、キャリア教育を推進する必要がある。具体的には、小中一貫校の強みを活かし、小中合同での取組を充実させ、上学年から学べる機会を多く設定するなど、効果的な教育活動を推進していく。</p>	
	地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う	77.1		(地) 子どもは地域を大切にしている	89.2		地域運営学校として、地域と協働した教育活動の開発	100			
	第四中学校と合同で取り組みを行っている	99.0		(保) 子どもは公共物を大切にしている	95.5		地域社会・家庭と教育活動のねらい等の共通理解	100			
	将来の夢や希望をもっている	75.0		(保) 将来の進路や職業についての指導	94.0		多様な教育力の活用とキャリア教育の充実	92.0			
	学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	68.1		(地) 将来の進路や職業についての指導	91.1		「地域で・地域とともに・地域を学ぶ」系統性のある郷土学習	96.0			
	第二小を誇りに思っている	82.4					危機回避能力の向上と自分の身は自分で守るための防災教育の充実	100			
	公共物を大切にしている	91.5					食育の充実と生活習慣の定着	96.0			
							地域でのボランティア活動等への積極的な参画	92.0			
					学校評価における地域・保護者との対話を通じた学校運営の改善		100				
めざす教師像 自己評価	人権尊重の理念を理解し、深い愛情を注ぐ教師	「あてはまる」68% 「だいたいあてはまる」32% 「あまりあてはまらない」0% 「あてはまらない」0%				<p>肯定的回答の多い結果となった、この結果は教師一人ひとりが高度専門職としての自覚をもって日々の教育活動に取り組んでいることを示している。しかし、めざす学校像の各項目の児童及び保護者・地域の肯定的回答と認識の差が生じている項目もある。</p> <p>学校ホームページ等を活用し、学校の教育活動を発信するとともに、教師が児童の実態や保護者・地域の声を正確に把握し、より効果的な指導・支援につなげられるよう、校内OJTや小中合同での研修会等の研修機会の充実を図り、教師一人ひとりのスキルアップを推進し、乖離の解消につなげていくことが必要である。</p>					
	組織の一員として協働し、職務を遂行する教師	「あてはまる」80% 「だいたいあてはまる」20% 「あまりあてはまらない」0% 「あてはまらない」0%									
	真摯に研究と修養に励み、教育観を磨く教師	「あてはまる」60% 「だいたいあてはまる」36% 「あまりあてはまらない」4% 「あてはまらない」0%									
	熱意と使命感をもち、信頼される教師	「あてはまる」60% 「だいたいあてはまる」36% 「あまりあてはまらない」4% 「あてはまらない」0%									